

Makita®

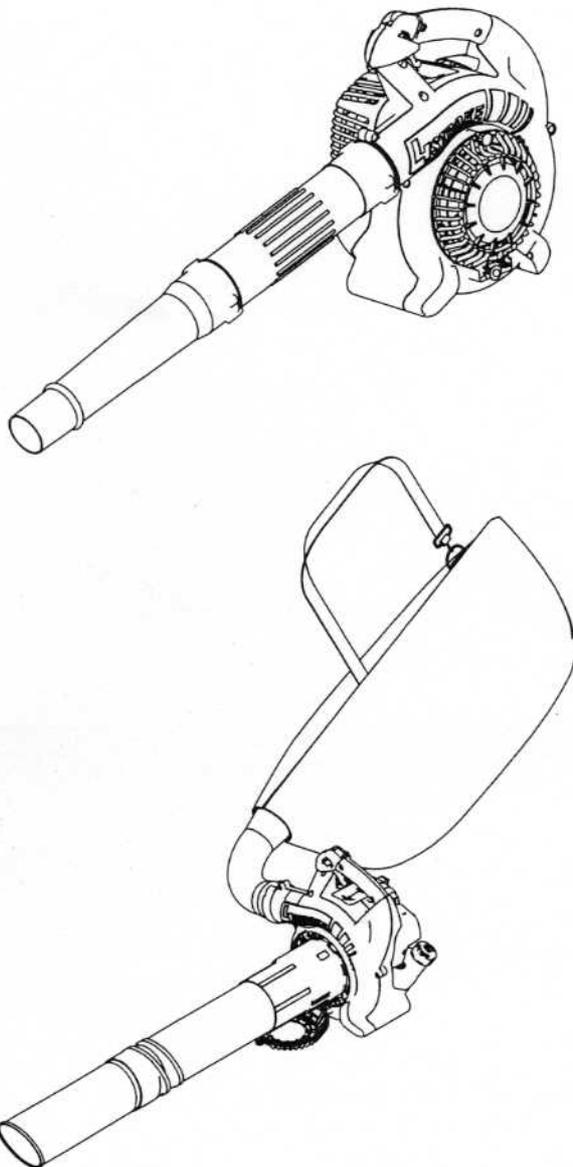


エンジンブロワ／集じん機

EUB4250

モデル EUB4250SP

取扱説明書



目次

●国内排出ガス自主規制について	2
●シンボルマークについて	3
●安全上のご注意	4~6
●仕様	6
●各部の名称	7
●注意ラベル	7
●使用準備	8
1.ブロワチューブとブロワノズルの取付け方	
2.集じんキットの取付け方	
●運転を始める前に	8~10
1.エンジンオイルの点検・補給	
2.燃料の給油	
●運転	10~11
1.始動方法	
2.停止方法	
●アイドル調整	12
●作業方法	12~13
1.ブロワ作業	
2.集じん作業	
●点検と整備	14~16
1.エンジンオイルの交換	
2.エアクリーナの清掃	
3.スパークプラグの点検	
4.燃料フィルタの清掃	
5.各所ボルト、ナット、ビスの点検	
6.各部の清掃	
7.ガスケット、パッキンの交換	
●格納方法	17
●故障かな?と思ったら	18
●保証書	19

このたびは、マキタエンジンブロワ／集じん機をお買い上げ賜り厚くお礼申し上げます。
ご使用に先だち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機の機能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと
保守をしていただき、いつまでも安全に効率よくお使いくださるようお願い致します。
なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

国内排出ガス自主規制について



このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

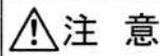
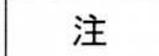
(社)日本陸用内燃機関協会：陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体です。

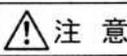
本協会は、小形汎用ガソリンエンジンの排出ガス中の有害物質を低減する自主規制に取り組んでいます。

シンボルマークについて

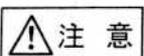
製品および取扱説明書にシンボルマークを掲載しております。このシンボルマークの意味をご理解の上ご使用ください。

	取扱説明書をよくお読みいただき内容を十分ご理解のうえご使用ください。		エンジンを停止してください。
	換気の悪い場所では使用しないでください。		給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、タバコを吸わないでください。
	自動車用ガソリンを入れてください。		給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどは、火気を近づけないでください。
	保護具を着用してください。		万一の場合にそなえて救急箱を備えてください。

注意文の  警告  注意  注 の意味について

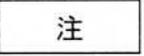
ご使用上の注意事項は  警告 と  注意  注 に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

 警告 : 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

 注意 : 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお、 注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。

いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

 注 : 製品および付属品の取り扱い等に関する重要な注意。

安全上のご注意

全般

警告

1. ご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、内容を十分ご理解のうえ、ご使用ください。

- 機械の取り扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。



2. 身体を冷やさなような服装で作業してください。
3. 袖や裾の締りのよい服装をしてください。また、手ぬぐいやタオルを首から下げて作業しないでください。

- 回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。

4. 本機を他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むよう指導してください。また、子供には本機を貸さないでください。

- 機械の取り扱いの知識が不十分な場合、事故の原因になります。

5. 保護帽（ヘルメット）、耳栓、保護メガネ（ゴーグル）、防振性のよい手袋、滑り止めのついた安全靴、すね当てなどの保護具を着用してください。また、粉じんの多い作業では、防じんマスクを併用してください。



作業前

警告

1. 次のときは機械を使用しないでください。事故の原因になります。

- 疲れているとき、身体が不調なとき。
- 酒類や薬物を飲んで正常な運転操作ができないとき。
- 夜間の使用。
- 妊婦による作業。

2. 燃料の取り扱いには十分注意してください。

- 燃料が肌に付いたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

3. 引火、火災の恐れがあります。

- 燃料の給油をするときは、火気のない所で行なってください。
- 燃料の給油および機械を使用するとき、手入れをするときなどはタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。
- 燃料の給油および燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。



- 燃料はこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
- 燃料の給油をした場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも3m以上離れてください。
- ガソリン、ガス、塗料、接着剤など引火性のある物の近くでは、使用しないでください。
- マフラの排気口付近は高温になりますので、燃えやすいものは近づけないでください。

4. エンジンの排気ガスは有害です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で使用しないでください。

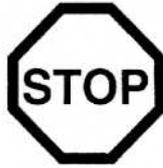
- 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。



5. 雨上がりなど足元が滑りやすい場所では、使用しないでください。また、常に足元に注意し、バランスが保てる無理のない姿勢で使用してください。

- 転倒してけがの原因になります。

<p>6. 作業場は十分明るくしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 暗い場所での作業は事故の恐れがあります。 <p>7. 次の場合はエンジンを停止させてください。本体が作動して、けがの恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動する場合 ・ 使用しない、または修理する場合 ・ その他危険が予想される場合 	<p>8. 指定の付属品やアタッチメントを使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本取扱説明書および弊社カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものは使用しないでください。事故やけがの原因となる恐れがあります。 <p>9. 吸気口やシリンダフィンのゴミは取り除いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ詰りによる加熱で、ゴミが燃え、火災のおそれがあります。
--	---



 注 意	
<p>1. 損傷した部品がないか点検してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用前に損傷した部品がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。 <p>2. エンジンの始動は安定のよい場所で行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故の原因になります。 	<p>3. 騒音に関しては、法令および各都道府県の条例で定める騒音規制があります。状況によって、しゃ音壁を設けて作業してください。</p>

作業時

 警 告	
<p>1. 始動時および運転中には、プラグキャップ部に手を触れないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感電する恐れがあります。 <p>2. ハンドル部は常に乾いた状態にし、手が滑らないようにしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確実に保持していないと、けがの原因になります。 <p>3. 始動するときは必ず取扱説明書にしたがってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 取扱説明書の指示以外の方法で始動すると、事故のおそれがあります。 	<p>4. 使用中、機械の調子が悪かったり、異常音が出たときは、直ちにエンジンを停止させ使用を中止してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そのまま使用していると事故の原因になります。



 注 意	
<p>1. エンジンの始動は安定のよい場所で行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故の原因になります。 <p>2. 使用時間は連続1時間以内とし、一連作業の後30分以上の休止時間を設けてください。</p>	<p>3. 使用中およびエンジン停止直後、マフラ、シリンダフィンなどの高温部に身体が触れないように注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やけどの原因になります。 <p>4. エンジンをかけたまま放置しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故の原因になります。

整備・格納

注 意	
<p>1. 点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、スパークプラグからプラグキャップをはずしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による事故の原因になります。 <p>2. エンジンオイル給油後はエンジンが正立状態になる様に保管、運搬してください。</p>	<p>3. 長期間ご使用にならないときは、燃料タンクやキャブレタ等から燃料を全部抜いて、乾燥したきれいな場所に格納してください。</p> <p>4. いつも安全に能率よくご使用頂くために定期点検をお勧めします。点検修理は、お買い求めの販売店またはお近くの当社営業所にお申しつけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと、事故の原因になります。

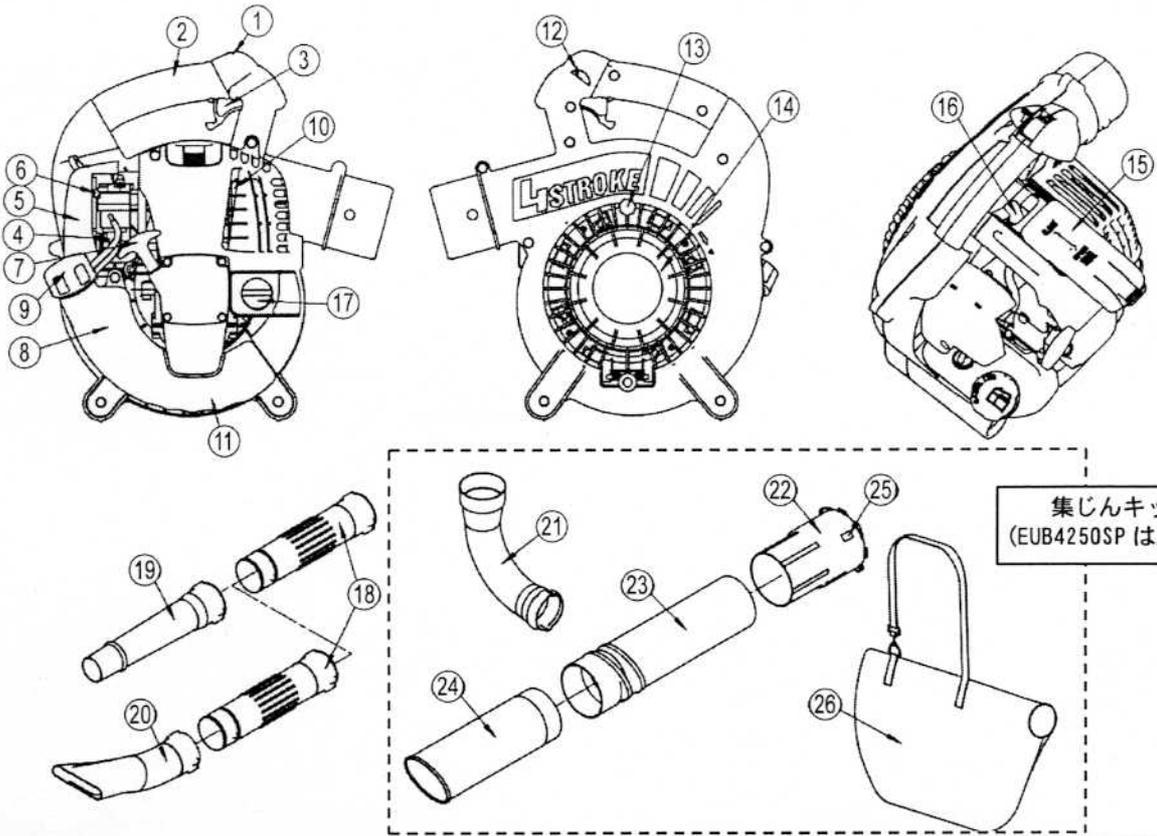
その他

⚠ 注 意	
<p>1. 車で移動する場合や本機を輸送する場合には、燃料を燃料タンクから抜き、燃料タンクが完全に空になっていることを確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 火災、事故の原因になります。 <p>2. 注意ラベルがはがれてしまった場合は、新しい注意ラベルを貼ってください。注意ラベルはお買い求めの販売店またはお近くの当社営業所にお申しつけてください。</p>	<p>3. 万一の事故に備えて、必ず救急箱を作業場の近くに備え付けてください。救急箱から持ち出した場合には、直ちに交換品を入れておいてください。</p> <p>4. いつも安全に能率よくご使用いただくために定期点検をお勧めします。</p>

仕 様

モデル		EUB4250	EUB4250SP
乾燥質量(付属管無)		kg	4.5
寸法(全長×全幅×全高)		mm	350×235×370
エ ン ジ ン	総排気量	mL	24.5
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量	L	0.5
	使用潤滑油		API 分類SF 級以上のSAE10W-30 オイル (自動車用4ストロークエンジンオイル)
	潤滑油量	L	0.08
	気化器		ダイヤフラム式
	点火方式		無接点マグネット方式
	点火プラグ		NGK CMR6A (Cタイプ)
	始動方法		リコイル式 (メカニカルデコンプ)
	潤滑方式		強制潤滑方式
操 作 部	操作ハンドル	ポリウレタンケース一体型ループハンドル (ゴムグリップ付) 燃料タンク一体型補助ハンドル	
	エンジン回転制御方式	トリガレバー、トリガ固定レバー	
標準装備品		ブロワノズルA (丸型)、ブロワノズルB (扇型)、ブロワチューブ (2本)、吸引ノズルA、吸引ノズルB、吸引ノズルC、エルボ、ダストバッグ、ボックスレンチ、オイルボトル、取扱説明書	ブロワノズルA (丸型)、ブロワノズルB (扇型)、ブロワチューブ (2本)、ボックスレンチ、オイルボトル、取扱説明書

各部の名称



①ストップスイッチ	⑧燃料タンク	⑮プラグカバー	⑳エルボ
②メインハンドル	⑨燃料タンクキャップ	⑯スパークプラグ	㉑吸引ノズルA
③トリガレバー	⑩マフラ	⑰オイルキャップ	㉒吸引ノズルB
④プライマポンプ	⑪アシストハンドル	⑱ブロウチューブ	㉓吸引ノズルC
⑤エアクリーナカバー	⑫トリガ固定レバー	⑲ブロウノズルA	㉔矢印マーク
⑥チョークレバー	⑬スクリュ	㉕ブロウノズルB	㉖ダストバッグ
⑦スタータハンドル	⑭吸引口カバー		

注意ラベル

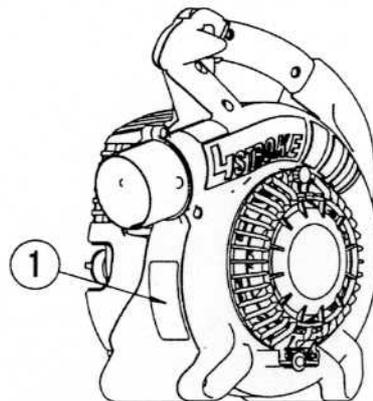
本機を安全にご使用いただくために、本機には注意ラベルが貼ってあります。注意ラベルを全て読んでからご使用ください。

注意ラベルははっきりと見えるように、常にきれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また、ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものと交換し、貼り付けてください。

ラベルはお買い求めの販売店またはお近くの当社営業所にお申しつけください。

貼付位置①

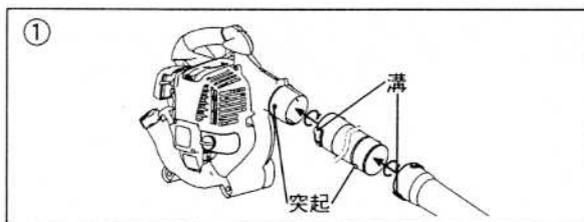


使用準備

ブロワ作業、集じん作業にあわせてそれぞれの付属品を取り付けてください。

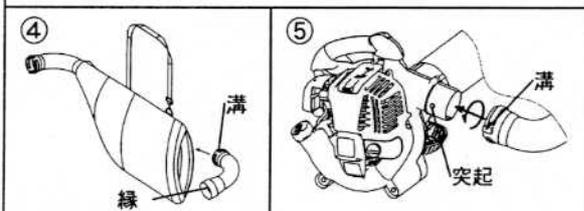
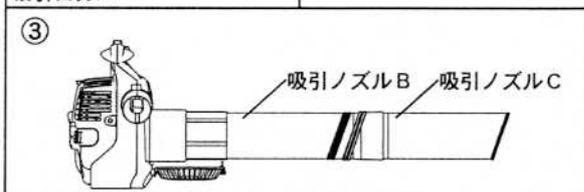
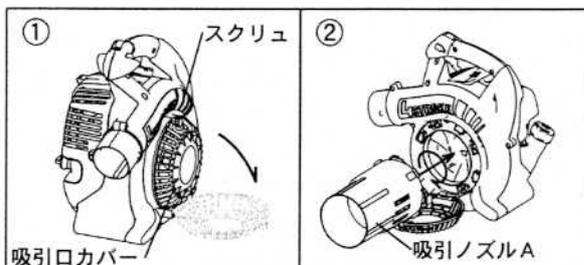
1. ブロワチューブとブロワノズルの取付け方

- ① ブロワチューブの突起とブロワノズルの溝を合わせ、ブロワノズルを回してしっかり接続してください。同じ要領でブロワチューブを本機に取り付けてください。



2. 集じんキットの取付け方

- ① スクリュを緩めて、吸引口カバーを開けてください。
- ② 吸引ノズルAの矢印マークと本機の●を合わせて、差し込んでください。矢印が▼の位置にくるまでノズルを回転させて、確実にロックしてください。
- ③ 吸引ノズルAにB、Cの順で取り付けてください。このとき吸引ノズルCの斜めの口が下を向くように取り付けてください。
- ④ ダストバッグのファスナーを開けます。エルボの溝の付いた方から挿入し、ダストバッグのエルボ開口部に押し込みます。エルボの吐出口縁にダストバッグ開口部があたるまで、エルボを押し出してください。ダストバッグのファスナーを閉めてください。
- ⑤ エルボの溝を本機排出口の突起に合わせ、エルボを回してダストバッグを本機に取り付けてください。

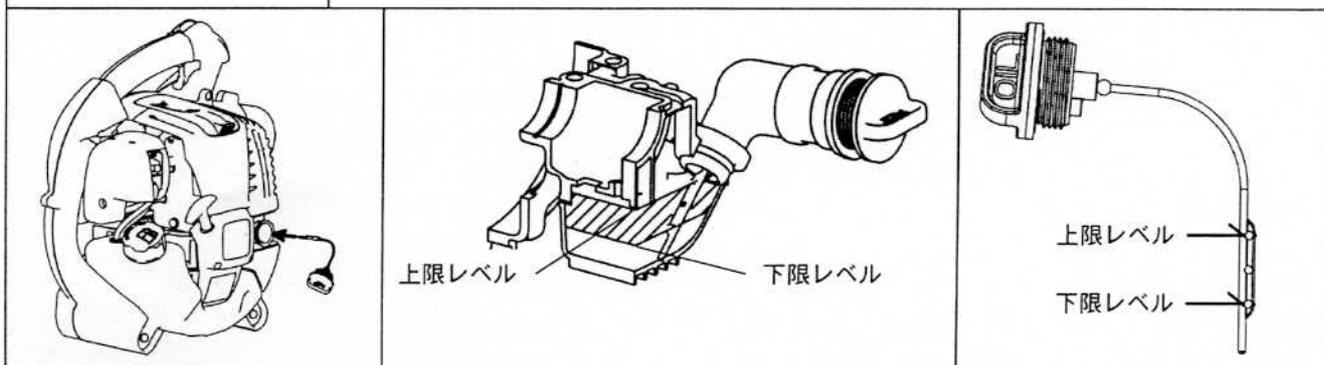


運転を始める前に

1. エンジンオイルの点検・補給

- ① エンジンが冷えている状態で、以下の手順に従って行ってください。
 - ・ 点検: 本機を水平にし、オイルキャップを外し、ゲージの上限・下限マークの範囲内までオイルがあるか点検してください。不足している場合(特に、下限レベルに達していない場合)は、新しいオイルを補給してください。
 - ・ 補給: 本機を垂直(吸引口カバー下)にし、オイルキャップを外してください。オイルパイプの口からオイルを供給し、オイルパイプ内の棚までオイルレベルが来たら給油を止めてください。
 - ② 参考として、オイルの補給時間は約10h(燃料給油回数で、10回(10タンク))です。
 - ③ オイルの汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は14ページ参照)
- 《推奨オイル》………API分類SF級以上のSAE10W-30オイル(自動車用4ストロークエンジンオイル)
- 《オイル容量》………約0.08L (80mL)

エンジンオイル点検方法

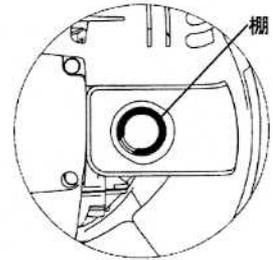
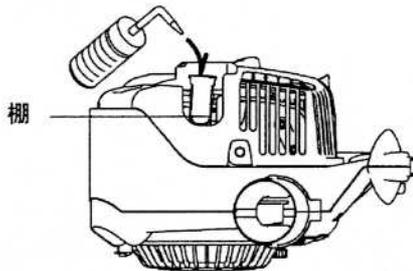
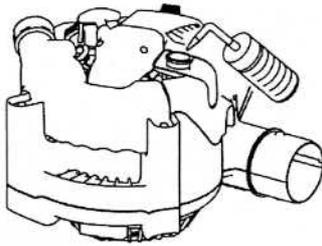


注

- 本機を正立以外の姿勢で保管されていた場合、エンジン内にオイルが回ってしまい、補給の際、オイルの入れ過ぎになってしまいます。
- オイル量が上限を超えますとオイル汚れや白煙の原因となります。

オイル交換のポイント1《オイルゲージについて》

- オイル給油口周りのゴミや汚れをとってからオイルゲージを外してください。
- 取り外したオイルゲージは、砂・ゴミ等がつかない場所においてください。もしこれらがついたまま組付けると、オイル循環不良やエンジン各所の摩耗を引き起こし、故障の原因となる恐れがあります。



オイル交換のポイント2《オイルをこぼしてしまったら》

- オイル汚れの原因となりますので、必ず拭き取ってから運転してください。

2. 燃料の給油

警告

- 燃料の給油をするときは必ず次の事項をお守りください。引火・火災の原因になります。
 - 火気のない所で行ってください。またタバコを吸うなど、火気を近づけないでください。
 - エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
 - 燃料の入っている燃料タンクキャップを開けるときはゆっくり開けてください。内圧により燃料が飛び出すことがあります。
 - 燃料をこぼさないように注意してください。こぼれたときは、きれいに拭き取ってください。
 - 換気のよい所で行ってください。
- 燃料の取り扱いには十分注意してください。
 - 燃料が肌についたり、目に入ったりすると、アレルギーや炎症の恐れがあります。体に異常がある場合は、直ちに専門医に相談してください。

《燃料の保管期間》

燃料専用容器に入れ、日陰で風通しの良い場所に保管した場合で4週間以内に使い切ることが目安です。専用容器でないとき、栓をしないうきなど、夏場では1日で劣化する場合があります。

本機並びに補給タンクの保管方法について

- 直射日光を避け、できるだけ涼しい所に保管してください。
- 自動車のトランクや車中に燃料を入れたまま放置しないでください。

《燃料について》

このエンジンは4ストロークエンジンです。自動車用ガソリン(レギュラーガソリン又はプレミアムガソリン)を燃料としてください。

燃料のポイント

- ガソリンにエンジンオイルを混合した、混合ガソリンを使用しないでください。カーボン堆積が多くなったり、故障の原因となる恐れがあります。
- 古い燃料を使用すると、始動不良の原因となります。

《給油について》

燃料の給油は、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。

《給油方法》

燃料タンクキャップを少し緩め、燃料タンク内と外部との圧力差を無くします。

燃料タンクキャップを外し補給しますが、給油口いっぱいまで入れないでください。

補給後、燃料タンクキャップをしっかり締め付けてください。

燃料タンクキャップは消耗品です。点検して異常が認められたら交換してください。(交換目安:2~3年)

運転

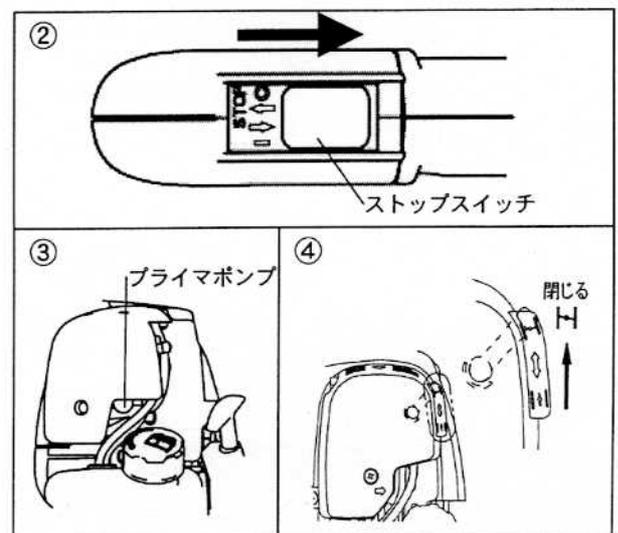
1. 始動方法

警告

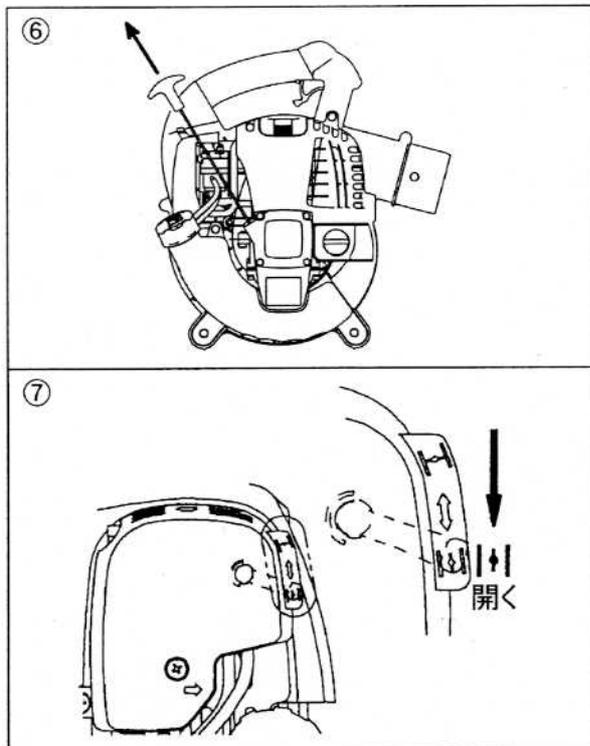
- 燃料を給油した場所でエンジンを始動させないでください。少なくとも3m以上離れた所で始動させてください。
 - 引火、火災の原因になります。
- エンジンの排ガスは有毒です。屋内、トンネル内など通気の悪い場所で使用しないでください。
 - 通気の悪い場所で使用すると排気ガス中毒の原因になります。
- 始動後、音、におい、振動などの異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、点検を行ってください。
 - そのまま使用しますと、事故の原因になります。
- ストップスイッチを“O”の位置にしたとき、エンジンが停止することを確認してください。

1) エンジンが冷えている場合、または燃料を給油した場合

- ① 本機を平坦な地面に置いてください。
- ② ストップスイッチを“|”の位置にしてください。
- ③ 燃料がプライマポンプに入るまで、プライマポンプを繰り返し押してください。
 - 7~10回程度で燃料が気化器にあがってきます。
 - 押しすぎても必要以上のガソリンは燃料タンクに戻りますので、問題ありません。
- ④ エアクリーナ右側のチョークレバーを上げてチョークを閉じてください。



- ⑤ 本機が動かないように左手でメインハンドルを押さえ、腰を十分に落とし、安定した姿勢をとってください。
- ⑥ スタータハンドルに抵抗を感じるまでゆっくり引き出してください。そこからスタータハンドルをいったん戻し、勢いよく引っ張ります。
 - ロープは一杯に引ききらないでください。
 - 引いたスタータハンドルは、その位置から手放さずに戻してください。
- ⑦ エンジンが始動しましたら、チョークレバーを開けてください。
 - チョークレバーはエンジンの調子を見ながら徐々に開き、必ず全開にしてください。
 - 寒い時またはエンジンが冷えている時は、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止する場合があります。ご注意ください。
- ⑧ 2～3分間低速で暖機運転をしてください。
- ⑨ エンジンの回転数が安定し、低速から高速回転にしたときに滑らかに加速するようになれば暖機運転完了です。



注

- チョークレバーを「閉」の位置から更に上に上げると破損します。
- 爆発音がしてエンジンが止った場合、または、始動したがチョークレバーを操作する前に止った場合は、チョークレバーを「開」にし、再びスタータハンドルを数回引いて始動させてください。
- チョークレバーを「閉」の位置にしたまま、スタータハンドルをいつまでも繰り返して引き続けると燃料を吸い込みすぎて始動しにくくなります。
- 燃料を吸い込みすぎたときは、スパークプラグをはずしてスタータハンドルをすばやく数回引いて余分な燃料を出してください。また、スパークプラグの電極部を乾かしてください。
- スロットルレバーを低速にしても、スロットルバルブがアイドル調整ネジに当たるまで戻らない場合は、コントロールケーブルの引掛かりを直して戻るようにしてください。

2) エンジンが暖まっている場合

- ① 本機を平坦な地面に置いてください。
- ② プライマポンプを数回押してください。
- ③ チョークレバーが開いていることを確認してください。
- ④ 本機が動かないように左手でメインハンドルを押さえ、腰を十分に落とし、安定した姿勢をとってください。
- ⑤ スタータハンドルに抵抗を感じるまでゆっくり引き出してください。そこからスタータハンドルをいったん戻し、勢いよく引っ張ります。
- ⑥ エンジンがかかりにくい時はスロットルを1/3程度開けて始動してください。

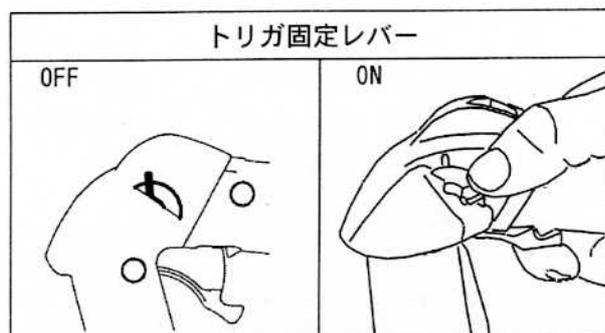
2. 停止方法

1) トリガ固定レバーがOFFの場合

- ① トリガレバーを離して、エンジンの回転を落としてからストップスイッチを“O”の位置にしてください。

2) トリガ固定レバーがONの場合

- ① トリガ固定レバーをOFFにして、エンジンの回転を落としてからストップスイッチを“O”の位置にしてください。



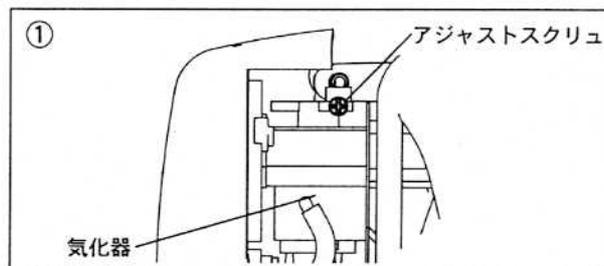
アイドリングの調整

⚠ 注意

- キャブレタは工場出荷時に調整済みです。アイドリング以外は調整しないでください。もし調整が必要になりましたら、販売店または当社営業所にご相談ください。

1. 低速回転の確認

- アイドリング時にエンジンが停止してしまう時は、回転が安定するようにアイドリングの調整を行ってください。
- アイドリングの調整は、アジャストスクリューをプラス(+)
ドライバーを用いて回して下さい。
- アジャストスクリューを右に回すとエンジン回転が上昇し、左に回すと降下します。



作業方法

1. ブロワ作業

- 本機をしっかり保持して作業してください。
- ちり払いされるものにノズルの先端を向けて、トリガレバーを引いてください。
- トリガ固定レバーによって、任意の位置でトリガレバーを固定できます。
- 作業に適したエンジン回転でトリガレバーを保持し、トリガ固定レバーを“ON”にします。
- エンジン回転数を調整するときは、一度トリガ固定レバーを“OFF”にし、再度トリガレバーにてエンジン回転数を調整してからトリガ固定レバーを“ON”にして固定してください。
- トリガ固定レバーを“ON”にしたままトリガレバーを操作すると、故障の原因になります。
- 燃料タンク下部がアシストハンドルになっていますので、両手作業が可能です。この際、必ず右手でアシストハンドルを保持してください。



2. 集じん作業

警告

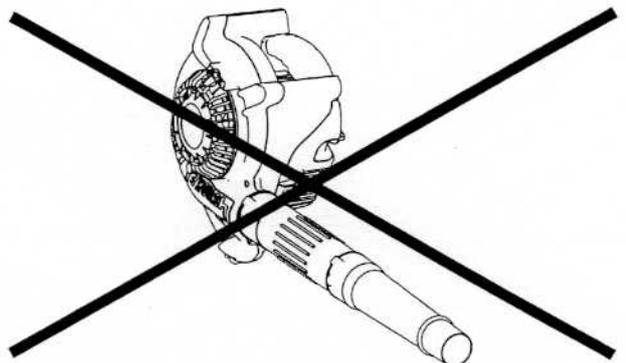
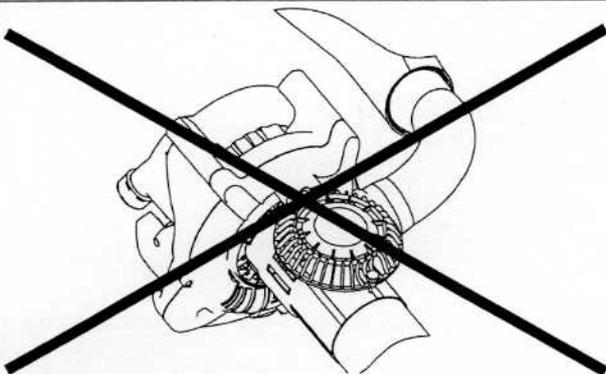
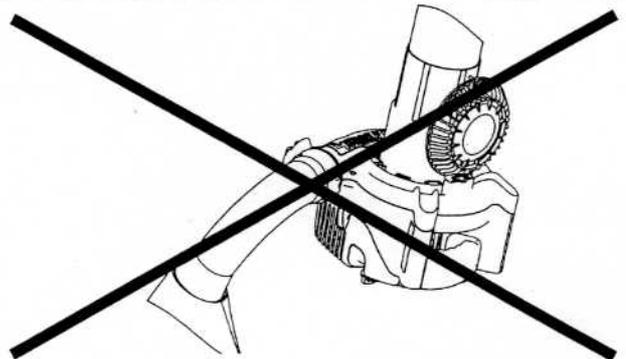
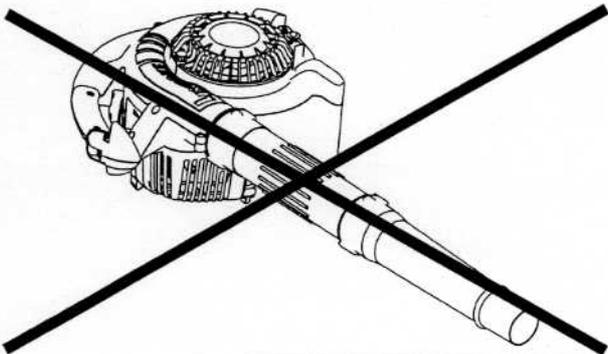
- 灯油・ガソリン・火のついたタバコ等は吸い込ませないでください。
 - ・ 火災の原因になります。
- 大きな木片・金属・ガラス・小石等の異物は吸い込ませないでください。
 - ・ 故障の原因になります。
- ダストバッグにゴミがたまりすぎると、エンジン側へ集じん物が流出する可能性があるため、ゴミは早めに捨ててください。
 - ・ 火災の原因になります。

- ダストバッグのベルトを肩にかけ、作業しやすいようにベルトの長さを調節してください。
- ダストバッグがねじれていないことを確認し、トリガレバーを引いて集じん作業を行ってください。
- ダストバッグにゴミがたまりましたら、本機からダストバッグを取り外し、ファスナを開いて中のゴミを捨ててください。



注

- 本機を吸引口カバー上およびメインハンドル下で運転すると、白煙、エアクリーナのオイル汚れ、オイル垂れの原因になります。



点検と整備

⚠ 注意

- 点検整備するときはエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから行ってください。また、スパークプラグやプラグキャップをはずしてください。
- 停止直後やプラグキャップを付けたままですと、やけどや不用意な始動による事故の原因になります。
- 点検整備後は必ずすべての部品を組み付けたことを確認してから運転を行ってください。

	項 目	点検・整備内容	記載頁
使 用 前	エンジン、ねじ、ナット	損傷と閉まり具合の目視検査 全体的な状態と安全度の確認	16 16
	エアクリーナ	清掃	15
	冷却風通路	清掃	5
	エンジンオイル	点検、補給	8-9
	燃料タンク	清掃、点検	9-10
	アイドル回転数	点検、調整	12
給 油 後	トリガレバー	機能確認	—
	ストップスイッチ	機能確認	10
毎 週	スパークプラグ	チェック、必要な場合は交換	16
50時間毎	エンジンオイル	交換（初期交換は20時間運転後に行ってください）	14
3ヶ月毎	燃料フィルタ	清掃、交換	16
	燃料タンク	清掃	
200時間毎	燃料パイプ	交換	※1
	吸・排気弁の隙間	調整	※1
	エンジン	オーバーホール	※1
	オイルチューブ	点検	※1
2年間毎	燃料タンクキャップ	交換	10
休 止 時	燃料タンク キャブレタ	空にする エンジンを運転し続け燃料を空にする	17

※1・・・200時間点検事項は販売店または当社営業所にお申しつけください。

1. エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると、摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル量を守りましょう。

⚠ 注意

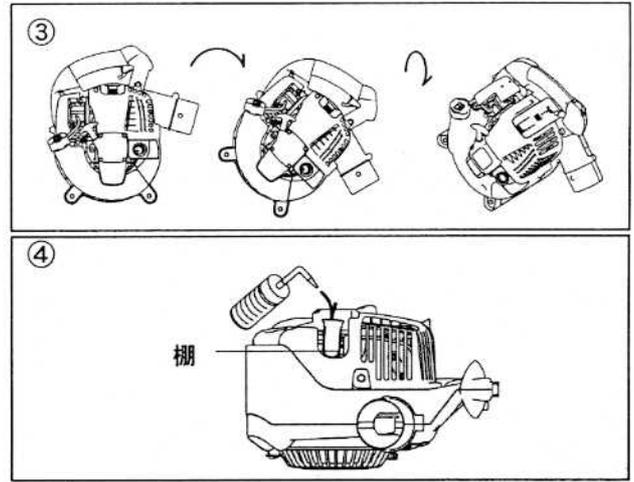
- エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをする恐れがあります。また停止直後はオイルケース内にオイルが戻りきらない為、オイル入れ過ぎの原因になります。
- オイル量が上限を超えますとオイル汚れや白煙の原因となります。

《交換時期》……初期 20 時間運転、その後 50 時間運転毎

《推奨オイル》 ……API分類SF級以上のSAE10W-30 オイル(自動車用4ストロークエンジンオイル)

交換に際しては、次の要領で行ってください。

- ① 燃料タンクキャップが締め付けられていることを確認します。
- ② オイルキャップを外します。
この時、オイルゲージにゴミがつかないように場所をおいてください。
- ③ 本機を吐出口側へ傾け、オイルを抜きます。オイルは容器などに受けてください。
- ④ 本機を垂直(吸引口カバー下)にし、オイルパイプ内の棚までオイルを注入してください。
- ⑤ 注入後、オイルキャップを緩まないように確実に締め付けてください。締め付けが緩いとオイルが漏れることがあります。



エンジンオイル交換のポイント

- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は、法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買い上げになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。(6ヶ月に一回は新しいオイルと交換)

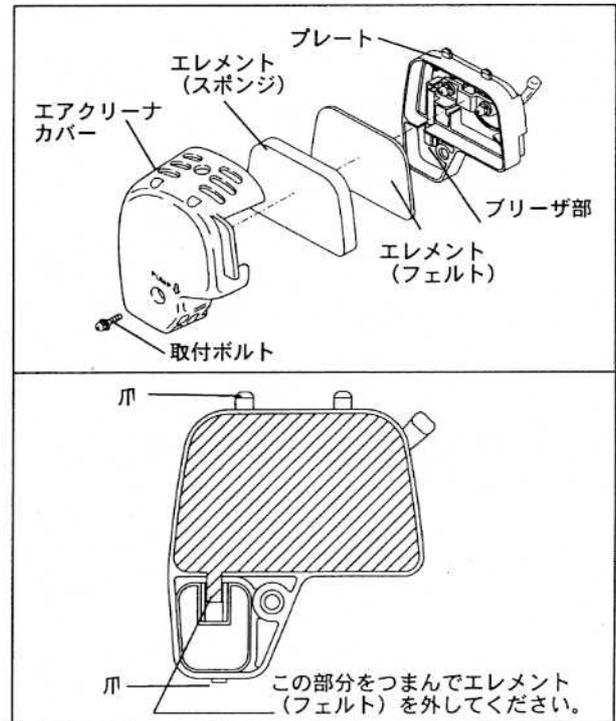
2. エアクリーナの清掃



警告 : 火気厳禁

《清掃・点検時期》………毎日(10時間運転毎)

- ① エアクリーナカバーの取り付けボルトを外します。
- ② カバー下側を引っ張るようにして、エアクリーナカバーを外します。
- ③ チョークレバーを全閉にし、キャブレタに塵埃などが入るのを防ぎます。
- ④ エlement(スポンジ)にオイルが付着している場合は、固く絞ってください。
- ⑤ 汚れがひどいときは、
 - Element(スポンジ)部分を取り外し、ぬるま湯又は水で薄めた中性洗剤で洗い完全に乾かします。
 - Element(フェルト)をガソリンで洗い、完全に乾かします。
- ⑥ Elementはよく乾かしてから組み付けてください。乾燥が不十分ですと始動困難の原因となります。
- ⑦ エアクリーナカバーとプレートのブリーザ部付近についたオイルをウエス等で拭き取ります。
- ⑧ 掃除が終わり次第エアクリーナカバーを取り付け、取り付けボルトで締め付けます。(取り付ける場合は上側の爪をはめこんでから下側の爪をはめこんでください。)



注意

- 作業環境によってElementに付着する塵埃が多い場合は、一日に数回掃除してください。
- Elementにオイルが付着したまま運転を続けると、エアクリーナ内のオイルが外に垂れ、オイル汚れの原因になります。

3. スパークプラグの点検

① プラグカバー開閉

開けるときは、右図のようにメインハンドルとプラグカバー突起部に指をかけ、突起部を押し上げ、“OPEN”方向へスライドさせます。

閉めるときは、“CLOSE”方向へプラグカバー突起部下の爪がエンジンカバーに乗り上げるまでスライドさせ、最後に突起部を押し込みます。



② スパークプラグの取り外し

スパークプラグの取り外しや取り付けには付属のボックスレンチを使ってください。

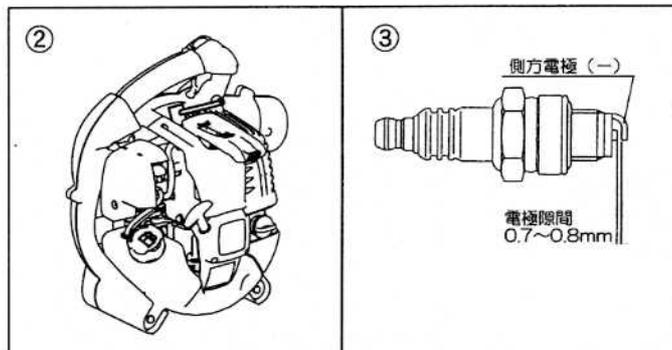
③ スパークプラグの点検

スパークプラグの2電極間(左図参照)は、0.7~0.8mmです。この間隔が広すぎたり狭すぎたりする場合には、正しく調整します。

スパークプラグにカーボンが溜まっていたり、汚れている場合には完全に掃除するか交換します。

④ スパークプラグの交換

交換に際して、NGK-CMR6A をご使用ください。



4. 燃料フィルタの清掃

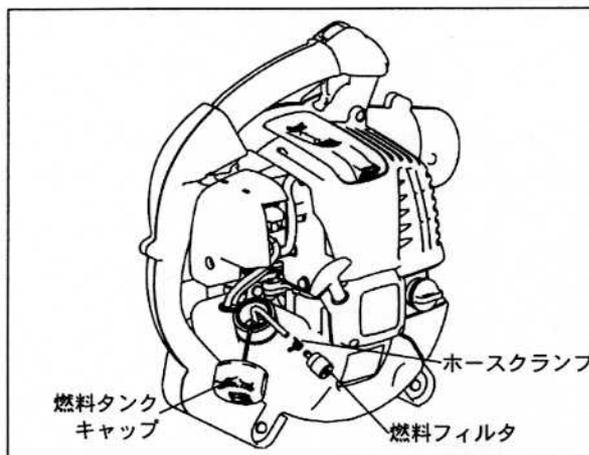
- 燃料フィルタが目詰まりすると始動困難になったり、エンジンの回転数が上がらない場合があります。
- 燃料フィルタは次の要領で定期的にチェックして下さい。

① 燃料タンクキャップを外し、燃料を抜き、燃料を空にしてください。この時、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに抜き取ってください。

② 燃料フィルタを針金を用い給油口から引出します。

③ 燃料フィルタの表面が汚れている場合はガソリンで汚れを落としてください。汚れたガソリンは各自治体指定の方法で処分してください。燃料フィルタの汚れが著しいときは交換してください。

④ 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。交換については販売店または当社営業所にお申し付けください。



5. 各所ボルト、ナット、ビスの点検

- 緩んだボルト、ナット等は増し締めします。
- 燃料やオイル漏れがないか点検します。
- 破損部品は新品と交換し、安全を心がけてご使用ください。

6. 各部の清掃

- 本機はいつもきれいにしよう心がけてください。
- シリンダフィン等にゴミが詰ると、焼付き、火災の原因にもなりますので、十分注意してください。

7. ガasket、パッキンの交換

- エンジンを分解した後、再度組み付けるときは、必ずガスケット、パッキン等を新品と交換してください。

格納方法

警告

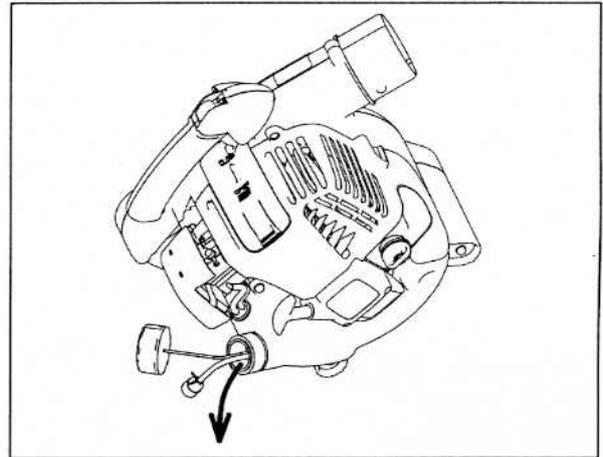
- 燃料を抜くときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
- 停止直後では、やけどまたは引火、火災の原因になる恐れがあります。

注意

- 長時間ご使用にならないときは、燃料タンクやキャブレタから燃料を全部抜いて、乾燥したきれいな場所に格納してください。

- 次の要領で燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。

- ① 燃料タンクキャップを外し、燃料を抜き、燃料を空にしてください。この際、燃料タンク内に異物が残っていないかを確認し、残っている場合はきれいに抜き取ってください。
- ② 燃料フィルタを、針金等を使い給油口から引き出します。
- ③ プライマポンプ内の燃料がなくなるまでプライマポンプを数回押し、燃料タンク内に出てきた燃料を抜いてください。
- ④ 燃料フィルタを燃料タンク内に戻し、燃料タンクキャップを確実に締め付けてください。
- ⑤ 最後にエンジンが停止するまで運転させてください。



- ⑥ スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを数滴たらしてください。
- ⑦ スタータハンドルをゆっくり引き、エンジン内にオイルを行きわたらせ、スパークプラグを取り付けてください。
- ⑧ 格納するときは、本機が正立になるようにして保管してください。
- ⑨ 抜き取った燃料は燃料専用容器に入れ、日陰で風通しのよい場所に保管してください。

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、まずご自身で点検を行い、その上でなお異常があるときは、取扱説明書の記載内容以外はむやみに分解しないで、お買い求めの販売店または当社営業所にお申しつけください。

不具合の状況	原因 (状態)	対応
エンジンが始動しない	ストップスイッチの操作忘れ	ストップスイッチを「 」の位置にしてください。
	プライマポンプの操作忘れ	7～10回押ししてください。
	スタータロープの引き速度が遅い	勢いよく引き出してください。
	燃料切れ	燃料を給油してください。
	燃料フィルタの目詰まり	清掃してください。
	燃料チューブが折れている	折れ目を直してください。
	燃料が古い	燃料が古くなると通常より始動が困難になります。新しい燃料と変えてください。 (約1ヵ月が目安です。)
	燃料の吸い込み過ぎ	チョークレバーを「開」にして、スロットルレバーを中速から高速にし、スタータハンドルをエンジンが始動するまで引いて下さい。それでも始動しない時は、スパークプラグを外し、電極を乾燥させ、元通り組付けて、同様の始動操作を行ってください。
	プラグキャップが外れている	確実に取り付けてください。
	スパークプラグの汚れ	清掃してください。
	スパークプラグ電極の隙間の異常	隙間を調整してください。
	スパークプラグのその他の異常	交換してください。
	キャブレタの異常	点検整備を依頼してください。
	スタータロープが引けない	点検整備を依頼してください。
駆動系の異常	点検整備を依頼してください。	
エンジンがすぐ止まる エンジンの回転が上がらない	暖機不足	暖機運転してください。
	エンジンが暖まっているのにチョークレバーを「閉」にしている	「開」にしてください。
	燃料フィルタの目詰まり	清掃してください。
	エアクリーナの汚れ、目詰まり	清掃してください。
	キャブレタの異常	点検整備を依頼してください。
	駆動系の異常	点検整備を依頼してください。
エンジンが止まらない	コネクタが外れている	確実に取り付けてください。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> エンジンをアイドリングにして、チョークレバーを「閉」にして止める </div>	電気系の異常	点検整備を依頼してください。

暖気後の再始動でかからない時は・・・

上記、項目をチェックしても異常のない場合は、スロットルを1/3程度開けて始動してください。

アフターサービスについて

●製品のご相談は、お買い上げの販売店または下記のマキタ営業所へお気軽にご相談ください。

事業所名	電話番号	事業所名	電話番号	事業所名	電話番号
札幌支店	<011>(783)8141	足立営業所	<03>(3899)5855	東大阪営業所	<06>(6746)7531
札幌営業所	<011>(783)8141	大田営業所	<03>(3763)7553	関西物流センター	<0725>(46)6715
旭川営業所	<0166>(29)0960	江戸川営業所	<03>(3653)5171	南大阪営業所	<0725>(46)6611
釧路営業所	<0154>(37)4849	多摩営業所	<042>(384)8411	奈良営業所	<0742>(61)6484
函館営業所	<0138>(49)9273	立川営業所	<042>(542)1201	橿原営業所	<0744>(22)2061
苫小牧営業所	<0144>(68)2100	横浜支店	<045>(472)4711	和歌山営業所	<073>(471)4585
帯広営業所	<0155>(36)3833	横浜営業所	<045>(472)4711	田辺営業所	<0739>(25)1027
北見営業所	<0157>(26)9011	川崎営業所	<044>(811)6167	沖縄営業所	<098>(874)1222
仙台支店	<022>(284)3201	平塚営業所	<0463>(54)3914	兵庫支店	<0794>(82)7411
仙台営業所	<022>(284)3201	相模原営業所	<042>(757)2501	三木営業所	<0794>(82)7411
古川営業所	<0229>(24)0698	湘南営業所	<0466>(87)4001	尼崎営業所	<06>(6437)3660
青森営業所	<017>(764)4466	静岡支店	<054>(281)1555	神戸営業所	<078>(672)6121
八戸営業所	<0178>(43)3321	静岡営業所	<054>(281)1555	姫路営業所	<0792>(81)0204
盛岡営業所	<019>(635)6221	沼津営業所	<055>(923)7811	広島支店	<082>(293)2231
水沢営業所	<0197>(22)5101	浜松営業所	<053>(464)3016	広島営業所	<082>(293)2231
郡山営業所	<024>(932)0218	甲府営業所	<055>(276)7212	福山営業所	<084>(923)0960
いわき営業所	<0246>(23)6061	金沢支店	<076>(249)5701	三原営業所	<0848>(64)4850
新潟支店	<025>(247)5356	金沢営業所	<076>(249)5701	岡山営業所	<086>(243)4723
新潟営業所	<025>(247)5356	七尾営業所	<0767>(52)3533	宇部営業所	<0836>(31)4345
長岡営業所	<0258>(30)5530	富山営業所	<076>(451)6260	徳山営業所	<0834>(21)5583
山形営業所	<023>(643)5225	高岡営業所	<0766>(21)3177	鳥取営業所	<0857>(28)5761
酒田営業所	<0234>(26)3551	福井営業所	<0776>(35)1911	松江営業所	<0852>(21)0538
秋田営業所	<018>(863)5205	岐阜支店	<058>(274)1315	高松支店	<087>(841)2201
宇都宮支店	<028>(634)5295	岐阜営業所	<058>(274)1315	高松営業所	<087>(841)2201
宇都宮営業所	<028>(634)5295	多治見営業所	<0572>(22)4921	徳島営業所	<088>(626)0555
小山営業所	<0285>(25)5559	松本営業所	<0263>(25)4696	松山営業所	<089>(951)7666
水戸営業所	<029>(248)2033	長野営業所	<026>(225)1022	宇和島営業所	<0895>(22)3785
土浦営業所	<029>(821)6086	上田営業所	<0268>(22)6362	高知営業所	<088>(884)7811
関東物流センター	<048>(771)3451	飯田営業所	<0265>(24)1636	福岡支店	<092>(411)9201
埼玉支店	<048>(777)4801	名古屋支店	<052>(571)6451	福岡営業所	<092>(411)9201
さいたま営業所	<048>(777)4801	名古屋営業所	<052>(571)6451	北九州営業所	<093>(551)3481
川越営業所	<049>(222)2512	一宮営業所	<0586>(75)5382	飯塚営業所	<0948>(26)3361
熊谷営業所	<048>(521)4647	東名古屋営業所	<0561>(73)0072	久留米営業所	<0942>(43)2441
越谷営業所	<048>(976)6155	知多営業所	<0569>(48)8470	佐賀営業所	<0952>(30)6603
前橋営業所	<027>(232)5575	岡崎営業所	<0564>(22)2443	長崎営業所	<095>(882)6112
高崎営業所	<027>(365)3688	豊橋営業所	<0532>(46)9117	佐世保営業所	<0956>(33)4991
両毛営業所	<0276>(46)7661	四日市営業所	<059>(351)0727	熊本支店	<096>(389)4300
千葉支店	<043>(231)5521	津営業所	<059>(232)2446	熊本営業所	<096>(389)4300
千葉営業所	<043>(231)5521	伊勢営業所	<0596>(36)3210	八代営業所	<0965>(43)1000
市川営業所	<047>(328)1554	京都支店	<075>(621)1135	大分営業所	<097>(567)3320
成田営業所	<0478>(73)8101	京都営業所	<075>(621)1135	宮崎営業所	<0985>(26)1236
木更津営業所	<0438>(23)2908	福知山営業所	<0773>(23)7733	鹿児島営業所	<099>(267)5234
柏営業所	<04>(7175)0411	大津営業所	<077>(545)5594	沖縄営業所	大阪支店の欄をご覧ください。
東京支店	<03>(3816)1141	彦根営業所	<0749>(22)6184		
東京営業所	<03>(3816)1141	大阪支店	<06>(6351)8771		
中野営業所	<03>(3337)8431	大阪営業所	<06>(6351)8771		

株式会社 マキタ

〒446-8502 愛知県安城市住吉町3-11-8

TEL. <0566> (98) 1711 (代) FAX. <0566> (98) 6642